ムカデにまつわる物語

～奈良県朝護孫子寺について～

皮膚科　和田康夫

【目的】

赤穂はムカデが多い。夏場になると、ムカデに咬まれた患者が受診する。それも夜間の救急外来を受診する。どういったときに咬まれるのか気になった。過去の文献を調べたが、まとまった報告に乏しい。当院で調べるよりない。受診患者の統計調査をすることとした。ムカデについて百科事典を見ていると、ムカデは縁起物という記述があった。ムカデは毘沙門天の使いで、毘沙門天を祭っているところにムカデも大切になされてきたという。本当にそうなのか、毘沙門天を祭る寺院を訪れた。ムカデ咬傷の統計と、ムカデと日本人との関わりについて述べる。

【方法】

皮膚科外来および救急外来を受診する患者を対象とし、受傷時刻、部位などの統計調査を行った。毘沙門天を祭っている寺院として、京都の鞍馬寺、毘沙門堂、奈良の朝護孫子寺を訪れ、ムカデとの関わりを調べた。

【結果】

ムカデ咬傷の季節は夏である。４月終わりのゴールデンウィーク開始頃から被害者がぽつぽつ出始める。６～７月がピークで１０月頃まで続く。受傷の時間帯は、約７割の方が夜である。受傷理由で一番多いのが、眠っているときに咬まれたというもので、次いで靴の中にいた、手袋の中にいたというものである。

京都鞍馬寺の宝物殿に曼荼羅図がかかっている。曼荼羅図の中央には本尊の毘沙門天が描かれている。毘沙門天の後方には、鞍馬らしく鞍馬天狗が控えている。注目すべきは、毘沙門天の両側にムカデがいることである。そのほかにも、茶器の表面にムカデが彫刻されているのを見ることができる。奈良県信貴山朝護孫子寺には、本堂の正面に「毘沙門天王」とかかれた額がある。額縁の左右には金色のムカデが一対彫られている。額の後方の欄間に目をうつすと、ムカデの彫刻がなされている(図７)。石灯籠や絵馬、奉納額にもムカデが描かれている。

【結論】

ムカデは、夏場、夜間眠っているときに家の中で咬まれることが多い。毘沙門天を祭っている寺院では、ムカデを縁起物として扱っている。足が多いから、客足がつくという言われからである。奈良県朝護孫子寺などで、ムカデが大切にされていた名残が感じ取れる。